資源がめぐる真ん中に。
DOWA

経営戦略説明会

2025年度（2026年3月期）中間期

2025年11月21日

DOWAホールディングス株式会社

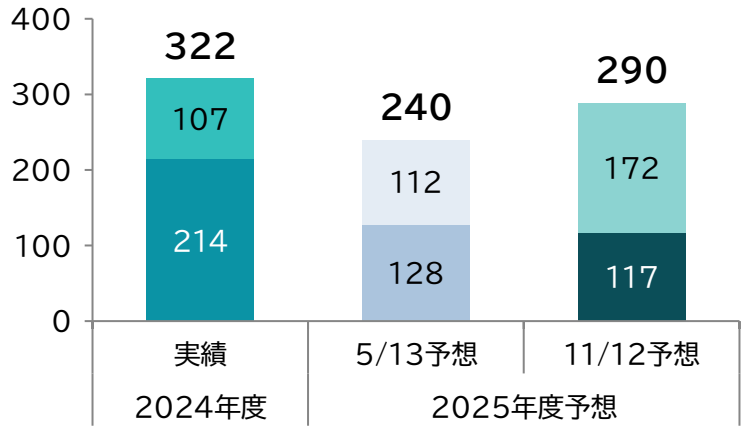
© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

2025年度 業績予想(前年同期比較)

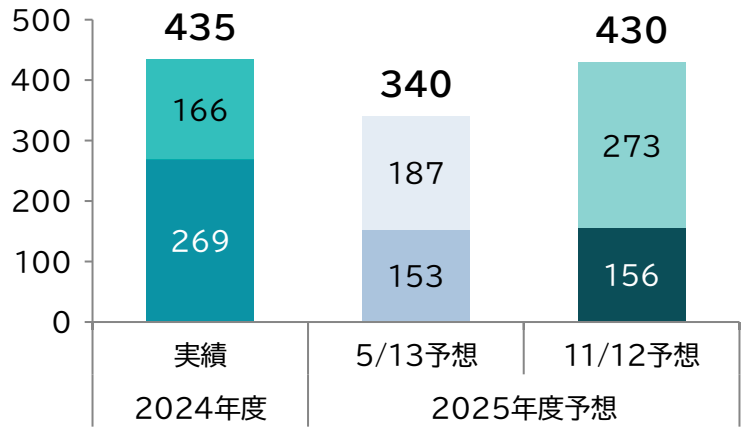
上期は銀粉の減販やデリバティブ評価損失の計上、亜鉛原料の購入条件の悪化などにより減収減益。下期は金属価格の上昇や、廃棄物処理の受注増、自動車向け伸銅品の増販などを見込み、通期の経常利益は前年並みを計画。

単位:億円		2025年度 上期実績	前年同期比	2025年度 下期予想	前年同期比	2025年度 通期予想	前年比
売上高		3,171	△354	3,788	+527	6,960	+173
営業利益		117	△97	167	+65	285	△37
経常利益		156	△113	273	+106	430	△5
セグメント別	環境・リサイクル	61	△15	78	+6	140	△9
	製錬	44	△78	146	+96	191	+19
	電子材料	△5	△17	△9	+0	△15	△18
	金属加工	24	△13	34	+12	59	△0
	熱処理	10	+3	11	△4	22	+0
	その他	19	+7	13	△5	33	+2
半期(当期)純利益*		136	△68	173	107	310	+38
1株当たり配当金		-	-	-	-	183 円	+33 円

営業利益



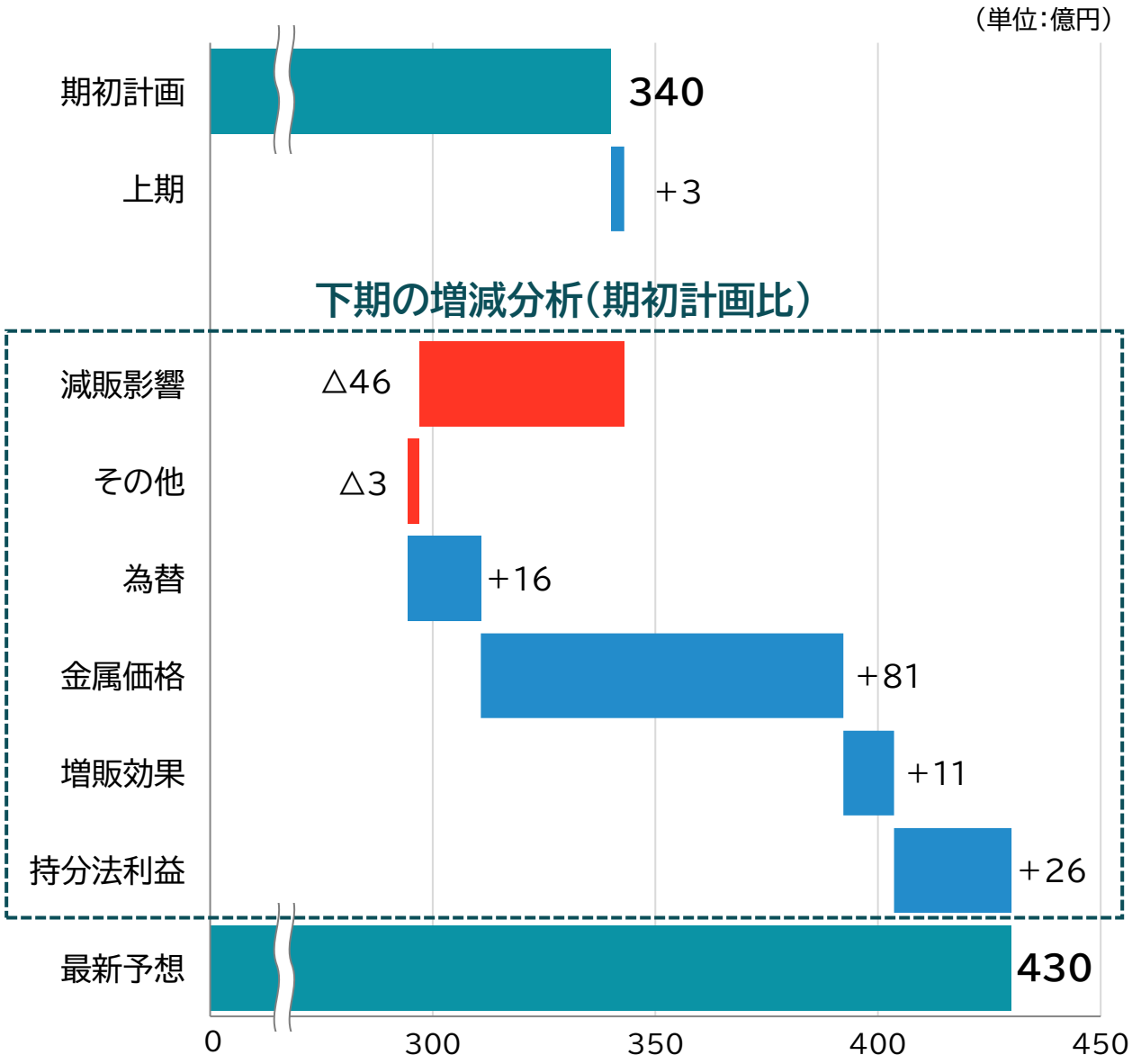
経常利益



＊親会社株主に帰属する半期(当期)純利益

© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

2025年度予想 経常利益の増減分析（期初計画比）



主な増減要因（上期）

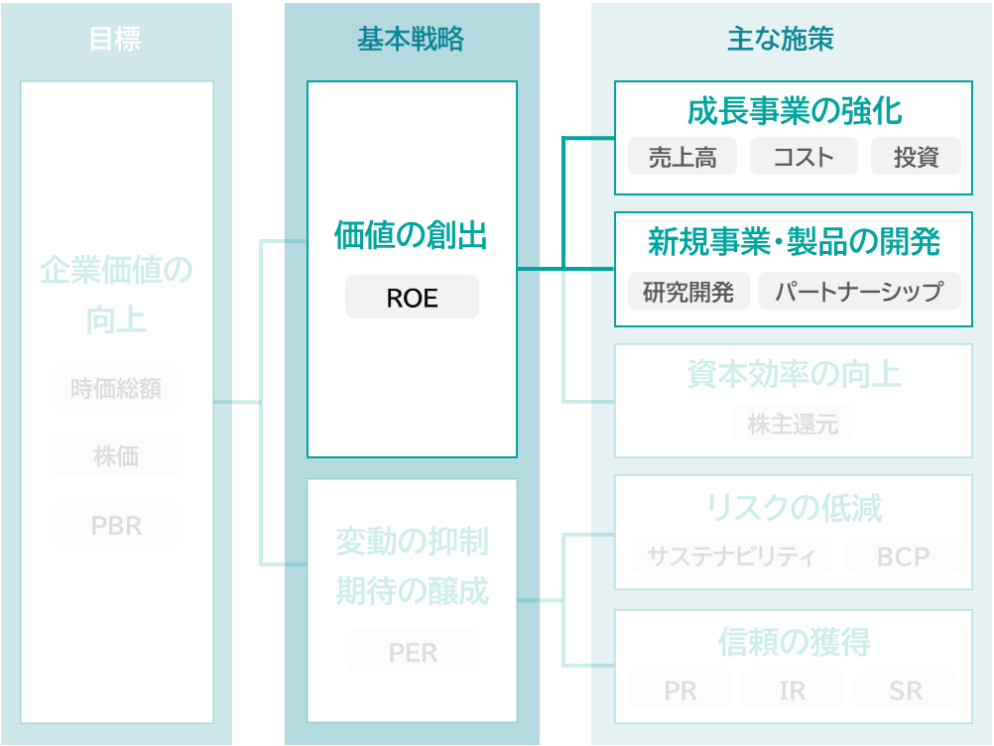
・デリバティブ評価による一過性の評価損失の計上はあったものの、金属価格の上昇や、難処理廃棄物の処理増などにより3億円の増益

主な増減要因（下期）

減販影響	・太陽光パネル向け銀粉の販売や、亜鉛やPGMを中心とした製錬部門の差量販売が減少
その他	・電力代の改善、電子材料部門のヘッジコスト増加など
為替	・製錬部門、電子材料部門を中心に円安メリットを享受
金属価格	・貴金属、ベースメタルともに大きく上昇
増販効果	・電子材料部門において新製品の有償サンプル収入が増加
持分法利益	・金属価格の上昇に伴い、海外亜鉛鉱山の持分法投資利益が増加

期初計画比90億円の増益を予想

© DOWA HOLDINGS CO., LTD.



中期計画2027の進捗

価値の創出

～成長事業の強化、新規事業・製品の開発～

© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

環境・リサイクル部門　2025年度の事業概況

事業戦略（2025年度下期以降）

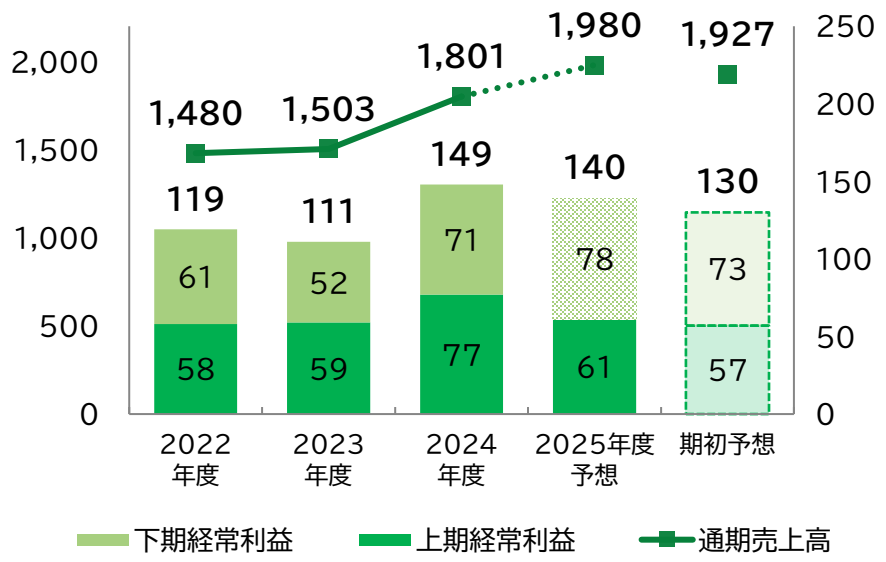
・PCB廃棄物の集荷は、2027年3月の処理期限に向け減少傾向。難処理廃棄物の増処理による補填に取り組む。

・国内需要の拡大に対し、熊本や栃木に総合リサイクル拠点を立ち上げ、事業拡大を図る。

・インドネシアでは、旺盛な石油開発事業に伴う廃棄物の受注獲得に注力する。タイやシンガポールでは、将来の事業成長を見据え、積極的な設備投資を含めた事業基盤の整備を進める。

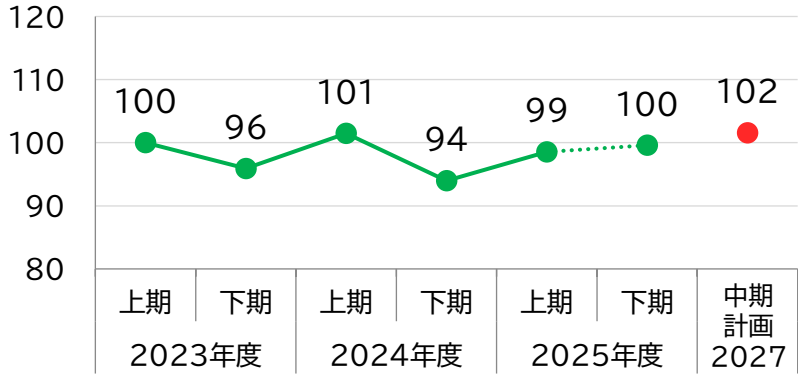
売上高・経常利益

（単位：億円、億円未満切り捨て）

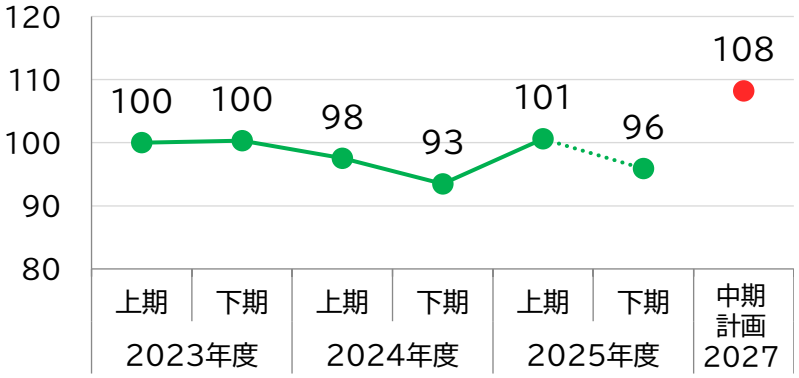


主要製品・サービスの動向（2023年度上期=100）

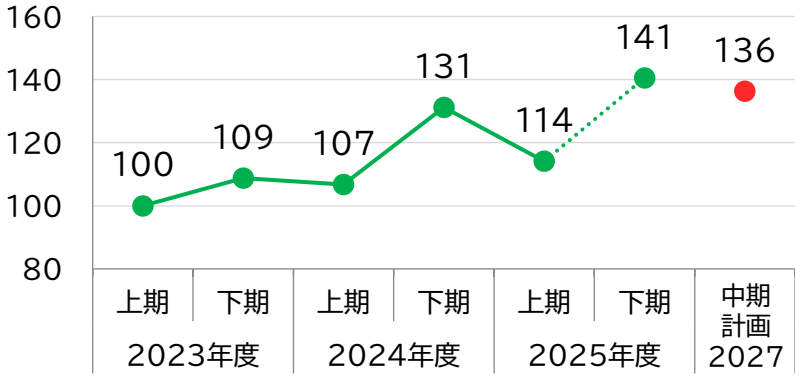
廃棄物の処理量（国内）



家電リサイクル処理量



廃棄物処理額（東南アジア）



© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

成長事業の強化｜環境・リサイクル部門　熊本事業所の立ち上げ

・九州地区：日本有数の半導体・電子部品や自動車の生産拠点、太陽光発電の先導的地域
・九州の中心に位置する熊本県に総合リサイクル拠点（DOWAエコシステム 熊本事業所）を設立し、2025年8月に竣工

事業領域・規模の拡大、マテリアルリサイクルの強化により、
リサイクル事業の収益性を向上させるとともに、九州エリアにおける本質的な循環の実現を目指す

事業領域・規模の拡大

家電4品目 → アクトビーリサイクリング水俣工場 → 解体後有価物

小型家電

プラスチック類

E-scrap

リチウムイオン電池
太陽光パネル
バイオマス原料
新規リサイクル事業の展開準備

DOWAエコシステム熊本事業所

アクトビーリサイクリング熊本工場

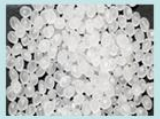
エコシステムリサイクリング熊本工場

マテリアルリサイクルの強化

単一素材化　販売単価の向上

プラスチック

プラスチックペレット（プラスチック原料）



銅

アルミ

・選別の高度化により、資源価値を向上
・プラスチック原料まで加工し、将来的には、家電や自動車のクローズドループリサイクルの実現を目指す

貴金属回収　取扱数量の拡大

RPF

・リサイクルが難しいプラスチックは、RPF（固形廃棄物燃料）として、CO2削減に貢献

基板

貴金属

・グループ製錬所への安定的な原料供給を支える

© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

製錬部門　2025年度の事業概況

事業戦略（2025年度下期以降）

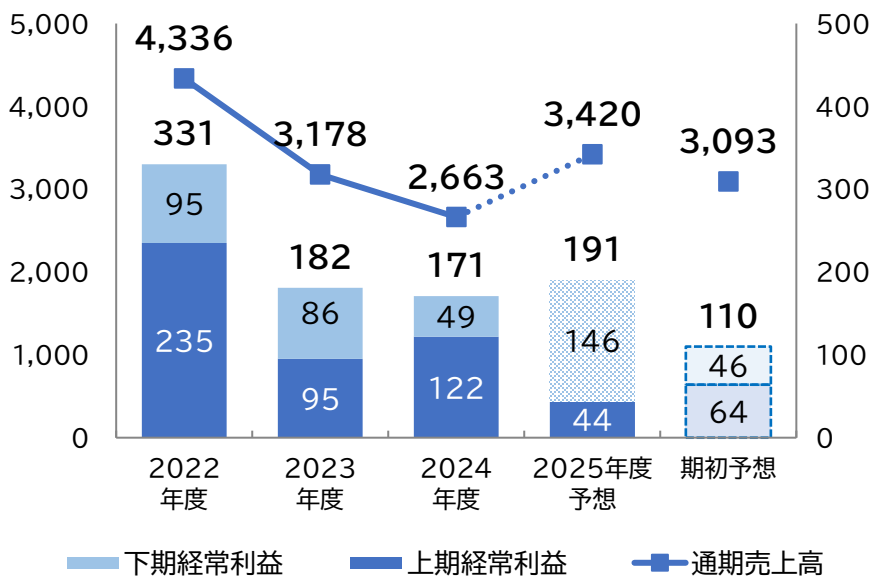
・北米の新集荷拠点を活用し、使用済み排ガス浄化触媒の増集荷、PGM生産量の増に取り組む。

・ティサパ鉱山の稼働が再開し、秋田製錬向け原料の調達が正常化。亜鉛生産量の挽回、小坂向け原料の品質改善を進める。

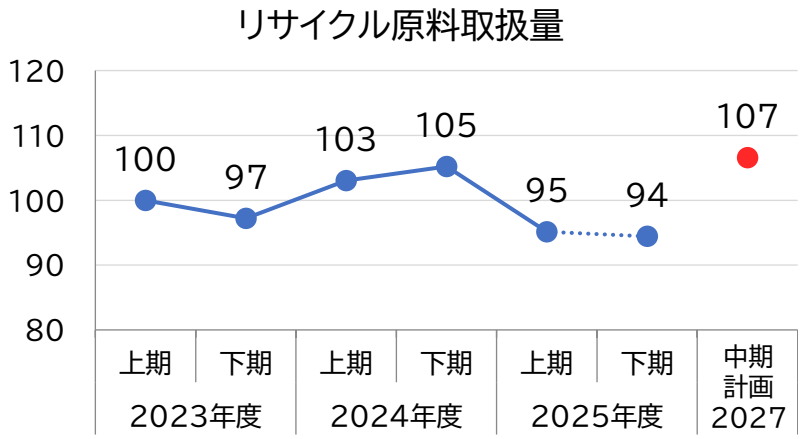
・小坂製錬では2026年度に計画した設備補修の一部を2025年度上期に前倒しで完了。リサイクル原料の増処理に取り組む。

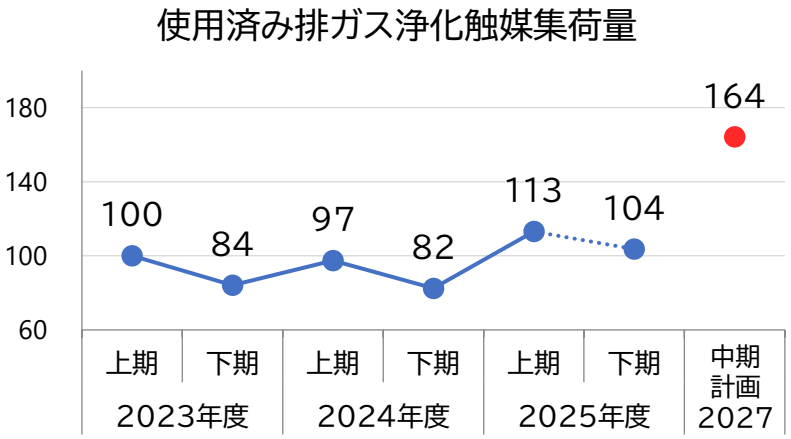
売上高・経常利益

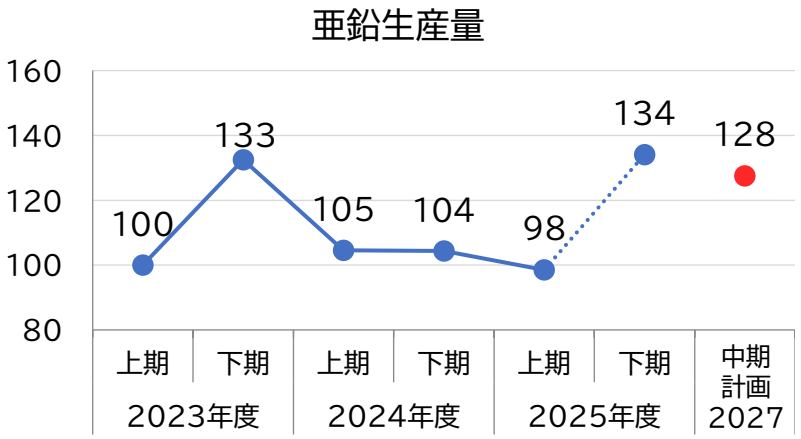
（単位：億円、億円未満切り捨て）



主要製品・サービスの動向（2023年度上期=100）







© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

電子材料部門　2025年度の事業概況

事業戦略（2025年度下期以降）

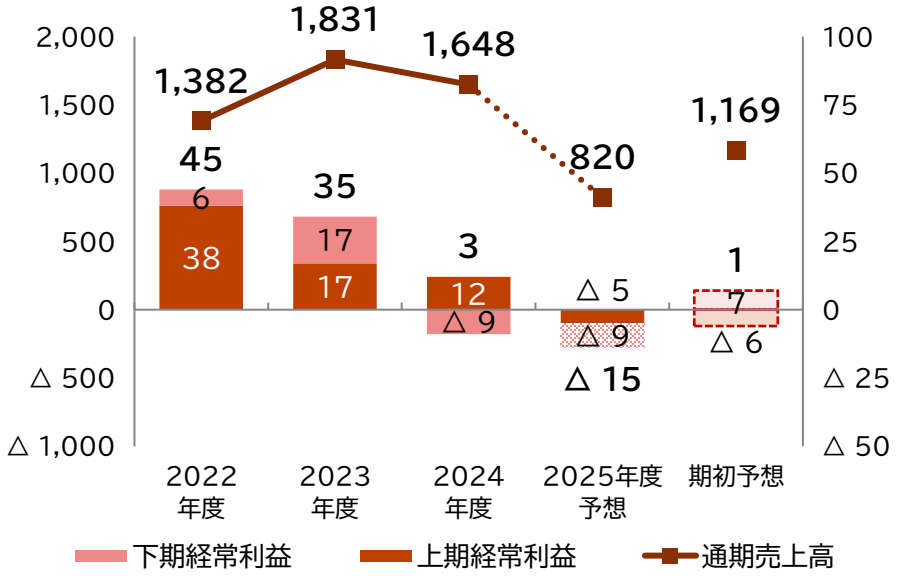
・近赤外LED・PDでは、新規案件を計画通り獲得。次世代案件の獲得を目指して開発を継続する。

・太陽光パネル向け銀粉は、銀地金の国際相場と中国国内相場の価格差を品質優位性で覆せず、事業立て直し戦略を再整理。

・計画外で需要が急増している、複合酸化物粉とナノ銀のサンプル収入を拡大し、部門全体の収益改善を進める。

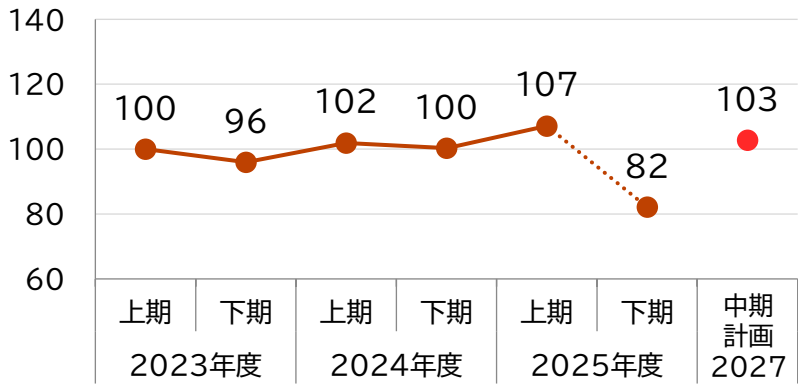
売上高・経常利益

（単位：億円、億円未満切り捨て）

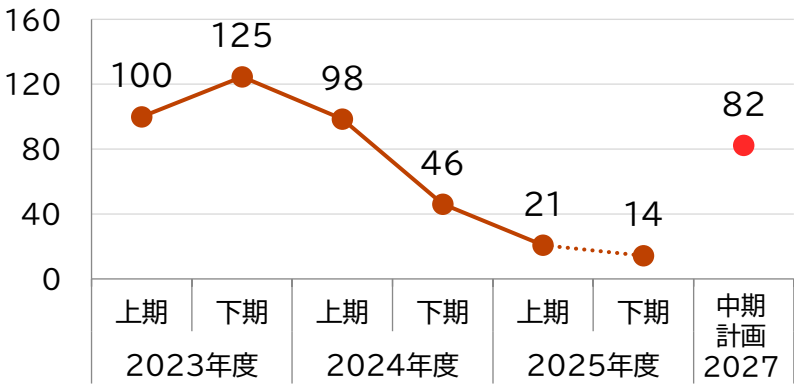


主要製品・サービスの動向（2023年度上期=100）

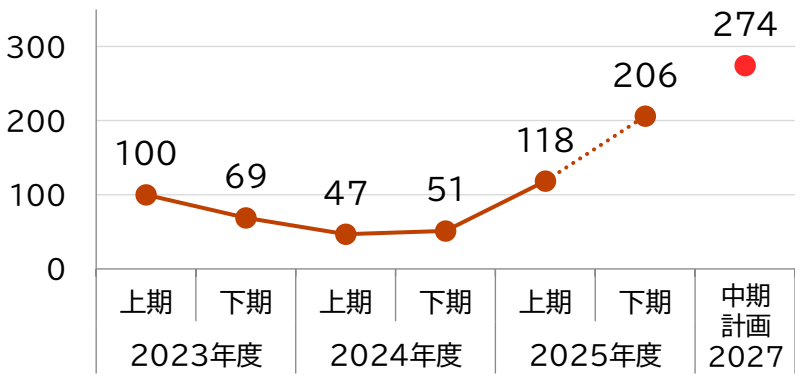
LED・PD販売量（赤色・赤外・近赤外）



銀粉販売量



有償サンプル収入



© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

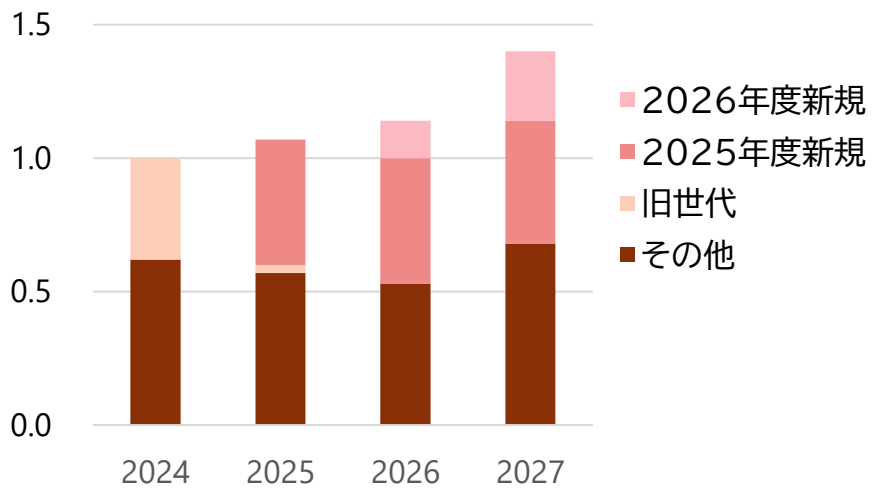
成長事業の強化｜電子材料部門　収益基盤の再構築

中期計画2027における電子材料事業立て直し施策

・銀粉等、新規導電粉の開発による太陽光パネル向け需要獲得
・LED・PDでの大型案件獲得（2025年度、2026年度）
・開発体制の見直し、生産性改善等によるコスト抑制

「LED・PDの大型案件獲得」は計画通り進捗

LED/PD売上高比率（2024年度を1.0として）



LED・PD 大型案件（ウェアラブルデバイス向け）の進捗状況

・2025年度の新規案件は計画通り獲得し、2025年6月から量産開始。収益水準は回復基調。
・2026年度の新規案件は、採用に向けてサンプルワーク中。

プロジェクト	～2023年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
旧世代案件	19年度　開発開始 21年度　量産開始	量産	量産	主力製品 終売見込	-
2025年度新規案件		試作	技術認定 製品認定	量産開始 （済）	量産
2026年度新規案件		試作	試作	技術認定 製品認定	量産開始 （予定）

© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

成長事業の強化｜電子材料部門　新規事業の立ち上げ

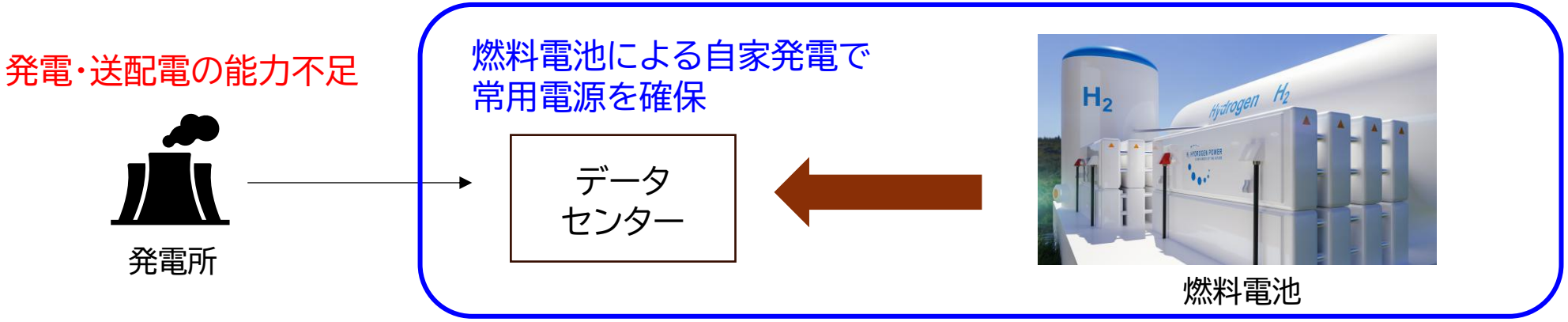
計画外の案件として、複合酸化物粉の需要急増、ナノ銀の新規用途立ち上がりに対応中。

◎ 複合酸化物粉（燃料電池の電極用材料）

・AI活用の拡大に伴いデータセンターの設置が加速し、電力需要が急増。一部地域では供給能力が不足。

データセンター事業者は、常用電源として短期間で設置可能な燃料電池を導入し、自家発電で電力を確保

- ▶ 新設ニーズにより、複合酸化物粉は2026年度の黒字転換を見込む。
- ▶ 電極は交換部品としてのニーズもあり、設置後も安定した需要が見込まれる。



◎ ナノ銀（ナノサイズの銀粉）

・xEV向け等の次世代二次電池の材料として検討され、サンプル提供が活発化。

- ▶ 時期は未定であるものの、量産が実現すれば安定収益が期待できる。

© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

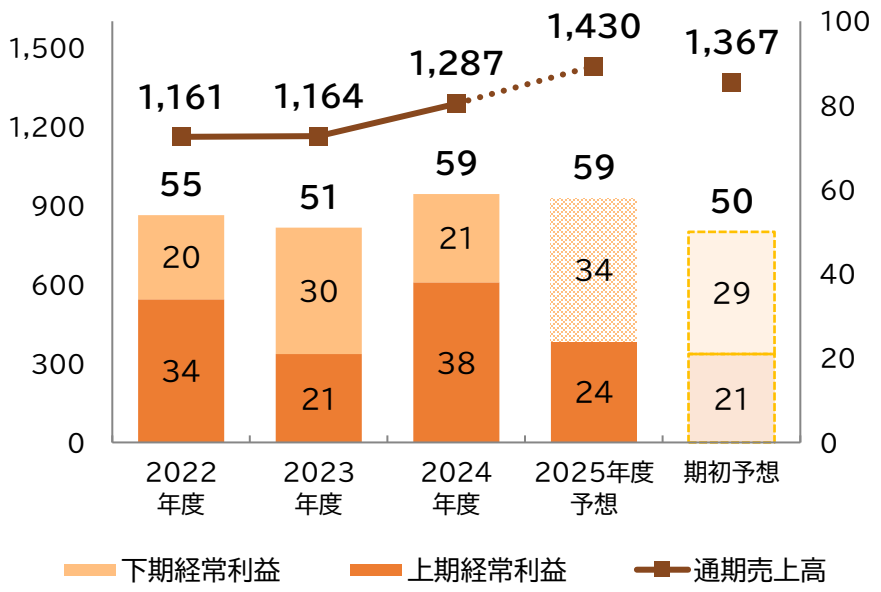
金属加工部門　2025年度の事業概況

事業戦略（2025年度下期以降）

・自動車向け、情報通信機器向け、ともに堅調な需要を想定。
・AIサーバー向けなど、高付加価値な製品の拡販を推進する。
・非日系メーカーを含めたアジアでの需要増加に対応するため、中国・タイ拠点の増強投資を進める。
・原材料費や人件費等のコストの上昇・高止まりに対し、価格改定に取り組む。

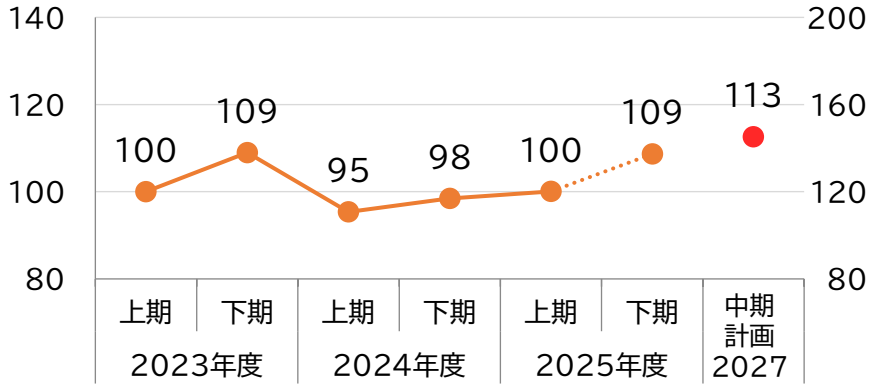
売上高・経常利益

（単位：億円、億円未満切り捨て）

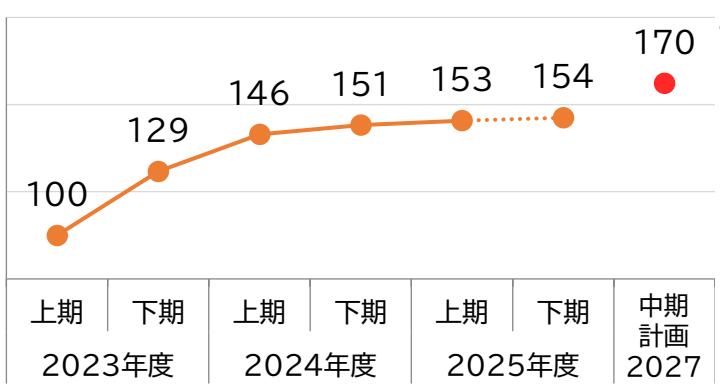


主要製品・サービスの動向（2023年度上期=100）

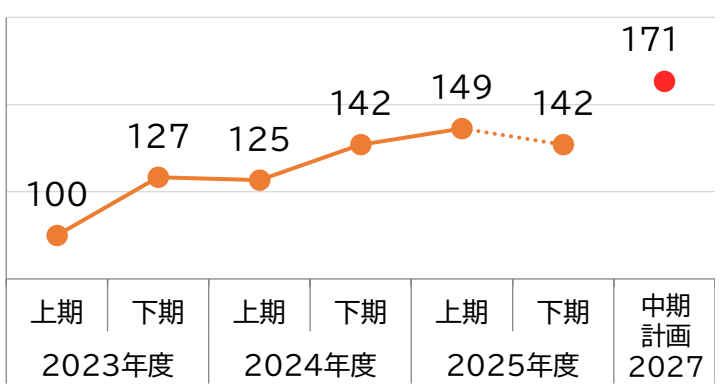
伸銅品販売量（自動車向け）



伸銅品販売量（情報通信機器向け）



伸銅品アジア拠点の販売量



© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

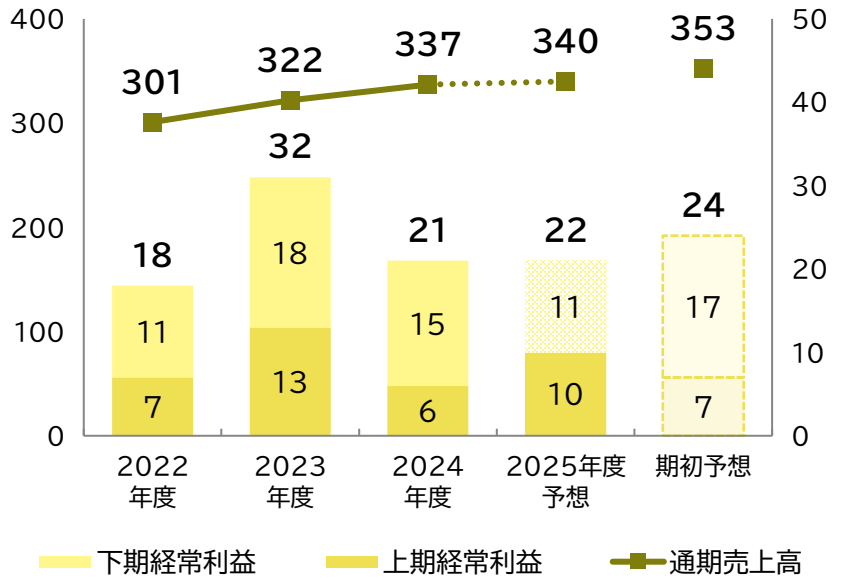
熱処理部門　2025年度の事業概況

事業戦略（2025年度下期以降）

・自動車関連の需要は堅調であり、前年比増益の見通し
・国内はZ-TKMなどの戦略商品を携え、脱炭素対応に伴って増加する熱処理の外製需要・設備投資需要を獲得する
・インドを筆頭に海外で増加する自動車部品向け熱処理や工業炉の需要、グローバル拠点ネットワークを活かし対応する
・電子機器・航空機など新規分野向け製品の開発・拡販を推進

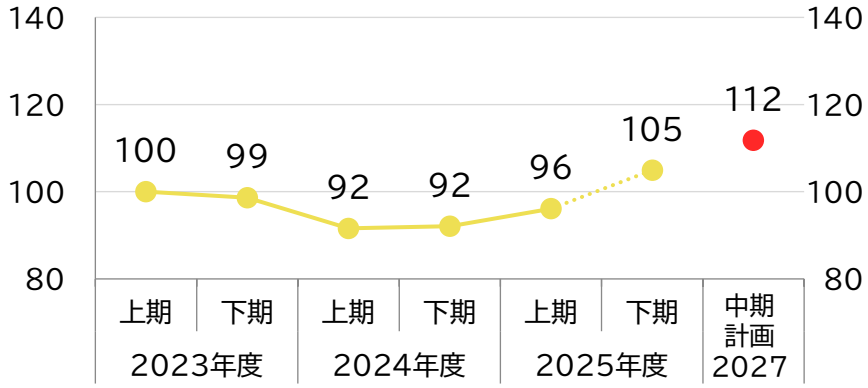
売上高・経常利益

（単位：億円、億円未満切り捨て）

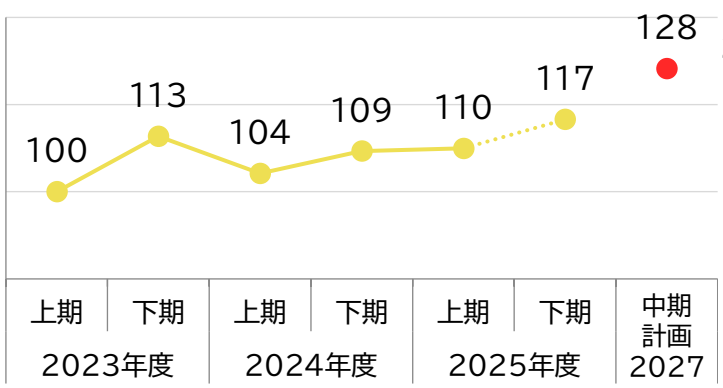


主要製品・サービスの動向（2023年度上期=100）

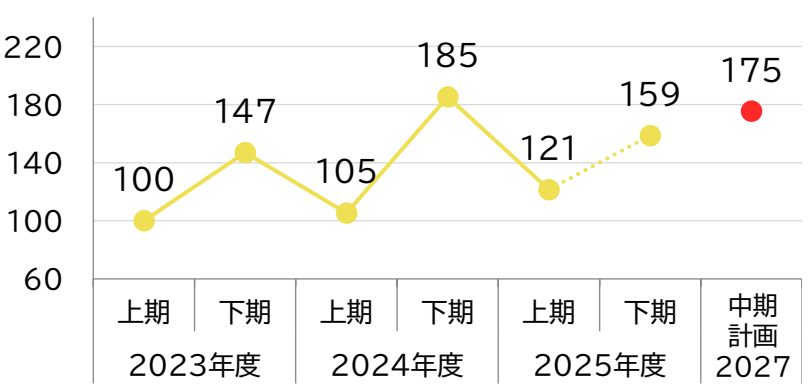
浸炭処理量（国内）



浸炭処理量（海外）



工業炉売上高



© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

成長事業の強化｜熱処理部門　インドでの成長ポテンシャル

・インドのGDP成長率は年率6%以上と見込まれる、労働人口は2050年まで増加し豊富な労働力もインドの魅力
・「Make in India」のスローガンのもと、インド政府は製造業振興政策を推進、GDPに占める製造業比率も拡大

インド市場の動向

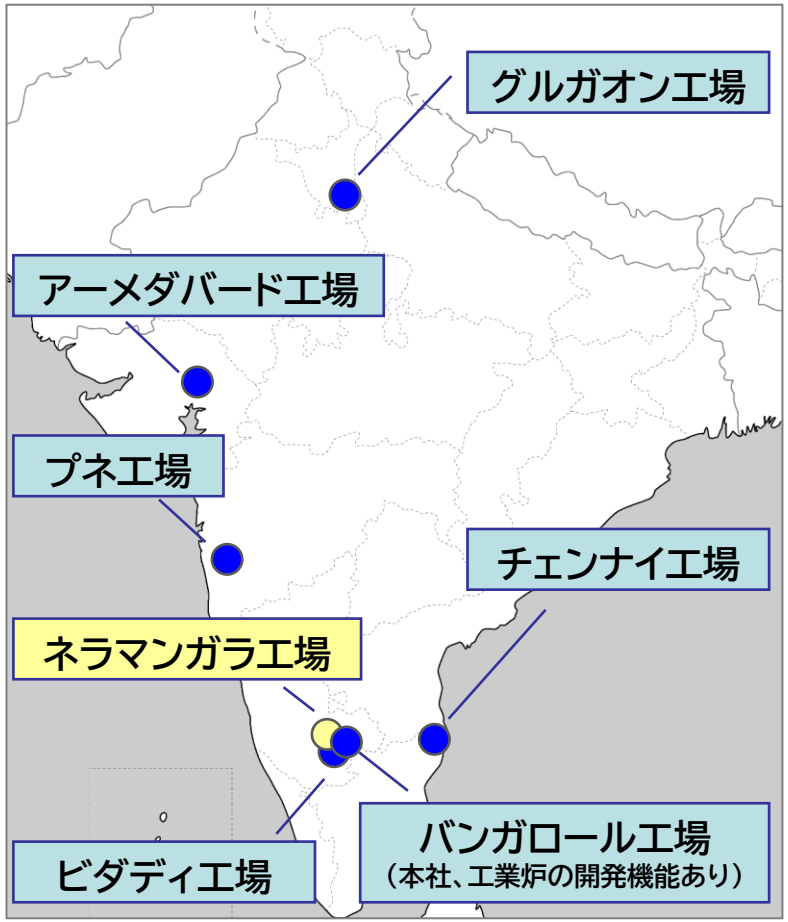
・所得向上や政府による補助金などにより、自動車販売台数は増加
・大気汚染対策として環境対応車のニーズが拡大、EV開発が加速
・自動車に加えて、二輪車や産業機械向け市場も拡大基調

インド国内の顧客において、多くの増産・増強プロジェクトが控える

インド最大の熱処理事業者である強みを活かし、需要を取り込む

事業戦略

熱処理事業：国内に点在する顧客の需要を拠点ネットワークで網羅
工業炉事業：高品質・低コストを武器に顧客の設備投資需要を獲得
オプション：拠点を活用し、インドでの新規事業展開の可能性を探る



熱処理事業拠点　工業炉事業拠点

© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

新規事業・製品の開発｜本質的な循環の実現に向けた取り組み

・国内外の大手BtoC企業において、再生素材の使用目標が設定されるなど、当社リサイクル製品の需要は拡大傾向

リサイクル製品の認証取得

多種多様なリサイクル製品の信頼性を担保

・リサイクル製品を証明する第3者認証として、UL認証の取得を推進

▶2025年11月現在、10の製品においてUL認証を取得

・UL認証を補完する仕組みとして、社内認証の仕組みを立ち上げ、運用開始

UL認証取得製品	
1	シアン化金カリウム
2	電気亜鉛
3	亜鉛紛
4	水アトマイズ銅粉
5	水アトマイズ銀粉
6	銀コート水アトマイズ銅粉
7	水アトマイズ合金粉（銅合金）
8	YCuT-FX（チタン銅合金条）
9	亜鉛カソード
10	コルソン合金

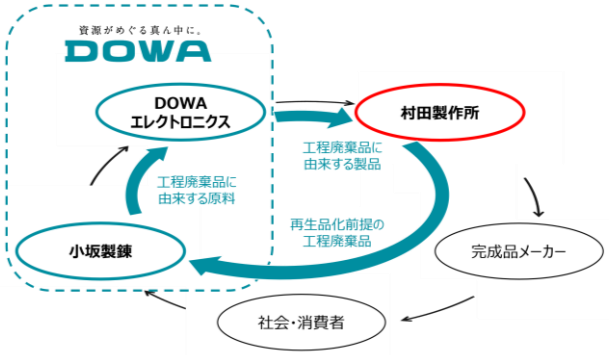
2027年度KPI：15品目以上取得

資源循環ニーズに応える新しいソリューションの確立

顧客を巻き込んだ資源循環スキームを構築

・顧客の工程廃棄物を金属素材に再原料化し、再び顧客に製品として納入するクローズドループリサイクルを実現し、循環の効率を向上

▶ 品質やコストに加え、新たな評価軸による製品・サービスの差別化を図る

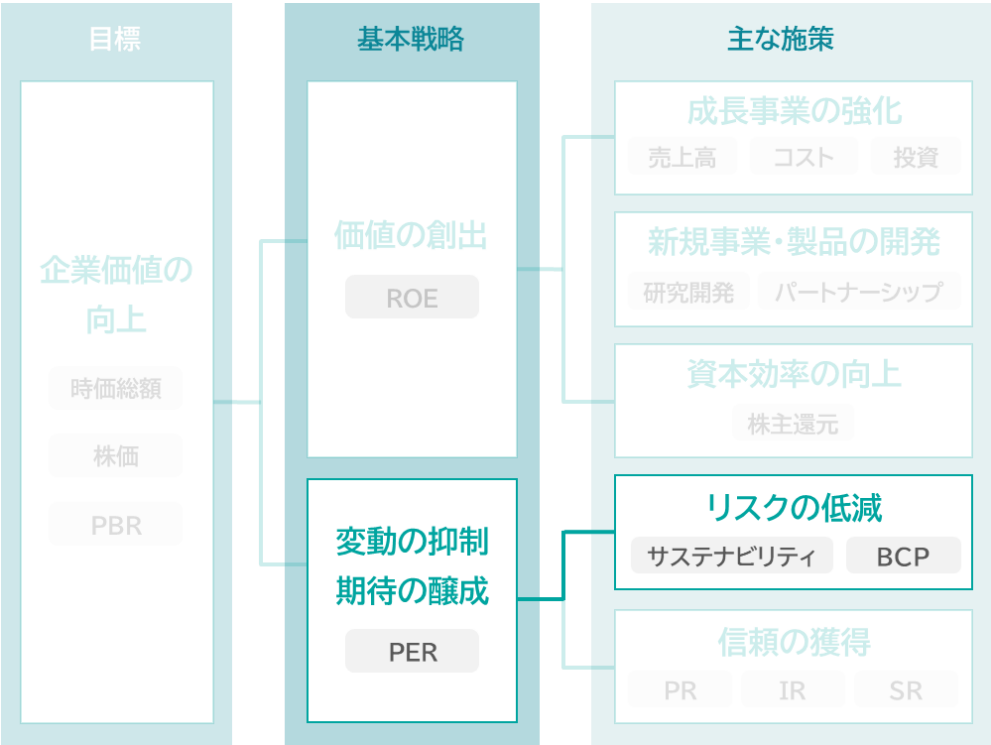


資源循環スキームの一例

循環のクオリティを向上させて本質的な循環を実現し、新しい顧客価値を提供

加えて、本質的な循環の実現に貢献する製品・サービスのブランディングを計画

© DOWA HOLDINGS CO., LTD.



中期計画2027の進捗

変動の抑制・期待の醸成

～リスクの低減～

リスクの低減｜サステナビリティに関する指標と目標（KPI） ※マテリアリティおよびKPIは抜粋し記載

マテリアリティにおける各指標（KPI）の目標達成を通じて、2030年のありたい姿の実現を目指す

マテリアリティ	資源循環型社会の形成/社会リスク・環境リスクを低減する製品・サービスの拡充	気候変動対応	人的資本の強化
中期計画2024 指標と目標・実績 *青字:達成* *赤字:未達*	・小坂製錬向けリサイクル原料の集荷量（2021年度＝100） 110 → 116 ・使用済みリチウムイオン電池リサイクル処理量（2021年度＝100） 400 → 210 ・生産する金属に占めるリサイクル原料由来比率（製錬部門の売上高ベース） 70% → 69% 他	・TCFDレポートの公開 ・気候変動対応ロードマップの作成 → TCFDレポートの公開、気候変動対策ロードマップの外部公表およびこれらに基づいた中期シナリオの作成 → 社会のGHG削減に貢献する当社製品・サービスの貢献目標の策定	・定年延長の導入 グループ全社の導入 → 100% ・新卒入社3年後の定着率（HD籍） 100%の維持 → 89% ・女性新規採用比率（HD籍） 30% → 27% ・有給休暇取得率 80%以上 → 82.9% 他
	循環のクオリティの向上へ	**実行のステージへ**	**社員が誇りをもって働く文化の醸成**
中期計画2027 指標と目標	循環の役割を表現した目標を設定 ・動静脈連携ビジネス創出テーマ数 新規3案件以上（2027年度） ・リサイクル金属認証品目数 15品目以上（2027年度）	体制整備は完了、具体的な目標を設定 ・GHG排出量（スコープ1・2） 2013年度比 22%削減（2027年度） →2024年度に達成のため、新たな目標を設定予定 ・DOWAグリーンアクションの品目数 50品目以上（2027年度）	引き続き、高い目標を設定 ・新卒入社3年後の定着率（HD籍） 100% ・女性新規採用比率（HD籍） 30% ・有給休暇取得率の向上 80% 他

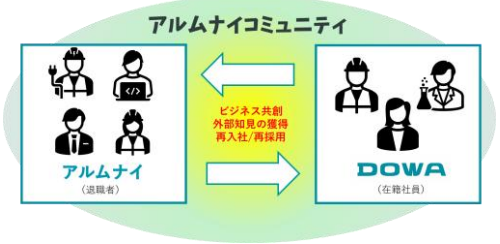
© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

リスクの低減｜人的資本の強化

・人的資本の強化における2030年のありたい姿『経済的価値と社会的価値との両立を図り、成長し続ける人と組織をつくる』の実現に向けて、各種施策を推進

勝ち抜ける人材層の拡充	・グループ全体での採用力の強化 ・中核人材の育成 ・教育基礎プラットフォーム確立	・SNS、リファラル採用・アルムナイ採用などの活用 ・グループ各社で連携した採用活動の推進 ・管理者層の育成強化、階層別教育の推進 ・階層別教育と選択型教育を組み合わせた学習機会の整理
働きたいと思う組織づくり	・働きやすい処遇制度 ・働き方改革 ・ダイバーシティーの推進 ・社員エンゲージメント向上	・ライフステージの変化に対応できる人事制度の検討・推進 ・育児・介護両立支援制度の充実 ・健康経営の推進、年間総労働時間の縮減 ・女性が働きやすい環境づくり、女性管理職比率の向上 ・社員充実度サーベイ・ストレスチェックなどの活用 ・個人の働きがいの創出施策の推進
社内外に開かれた会社	・情報共有、人的コミュニケーションの促進 ・社内外への情報開示	・DX活用による人材情報の適切な共有と人材活躍の促進 ・社内外への人的資本情報の開示の充実

退職者と現役社員の交流拠点「アルムナイコミュニティ」を始動



・ビジネスの共創
・外部知見の獲得
・優秀な人材の拡充

『成長し続ける人と組織』の実現へ

グループで18社が健康経営優良法人認定を取得（2025年11月時点）

2025 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門

© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

（補足）前提条件・感応度

感応度（営業利益/下期）

単位：億円

	前提条件	変動幅	感応度
為替	148.0円／$	±1円／$	**2.4**
銅	10,000 $／t	±100$／t	**0.1**
亜鉛	3,000 $／t	±100$／t	**2.5**
インジウム	350 $／kg	±10$／kg	**0.3**

※為替感応度の内訳は、製錬部門2.2億円、電子材料部門0.2億円です。

為替、金属価格

	2024年度			2025年度				（参考）
	上期平均	下期平均	年度平均	上期前提	上期平均	下期前提	年度平均	2025年10月平均
為替：（円/$）	152.6	152.5	152.6	142.0	146.0	148.0	147.0	151.3
銅：（$/t）	9,477	9,262	9,370	9,000	9,655	10,000	9,828	10,696
亜鉛：（$/t）	2,806	2,943	2,874	2,600	2,733	3,000	2,866	3,149
インジウム：（$/kg）	347	347	347	350	366	350	358	356

感応度については、現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の影響額は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

© DOWA HOLDINGS CO., LTD.

資源がめぐる真ん中に。

DOWA

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

© DOWA HOLDINGS CO., LTD.